

かなざわユースセンター インタビュー②

かなざわユースセンターによく来てくれた
2人の高校生が4月から大学生になります。
2人にとってユースセンターとはどんな場所だったのか、
インタビューしました。



② 高校3年生・男性へのインタビュー

ユースセンターはどうやって知りましたか？

ユースセンター自体は最初全然知らなかったのですが、長土塀青少年交流センターの学習スペースは友達から聞いていて、時間がある時に寄ってみたいなと思い、そこに行っていました。ある日、ユースワーカーの方から「今日イベントがあるけど来ないか？」と誘われたのがきっかけで、行き始めました。

ユースセンターでは何をして過ごしていますか？

高校2、3年生の頃は勉強を頑張らなければならなかったのですが、ユースセンターに来て勉強したり、大学生に勉強を教えてもらったりしていました。また、ボードゲームやダーツなど面白いものも多くあったので、活動に積極的に参加しようというよりは、面白い人やことがあるから行ってみようという感じでした。友達もできました。最初から仲良くしてくれた人も何人かいて、そういう人たちに会いに行くのも目的の一つでした。それからやはりユースワーカーに会いに行くこともあり、いわゆる第3の居場所として通っていました。

ユースセンターにはどれくらいの頻度で来ていましたか？

私の場合、ユースセンターがバスの乗り換えの中継地点だったため、待ち時間に勉強やゲームをして過ごすことができ、家に直行するよりもここに寄るのが良いと思って通い始めたのですが、ほとんど毎日通っていました。バスの乗り換え地点だったし、家からも適度な距離だったので時間に余裕があるときには必ず行く感じでした。だから、最初は二、三回来て楽しくなければやめようと思っていましたが、続けるうちに楽しいと感じて、ほとんど毎回、皆勤賞みたいなものです。

ユースセンターの好きなところはどこですか？

ユースワーカーとの距離が近く、気軽になんでも話したり聞いたりできるところかな。例えば夜の弁当を持ってきていたんだけど、温かくして食べたいんです。塾だと基本は勉強のことしか聞けないし、電子レンジがあっても使っていないのか聞けないけど、ユースセンターだと気軽に聞ける。しかも大体OKしてくれる。ユースワーカーを先生っていうとしたら、先生の距離が塾よりも近いです。あと大学生や面白い人たちに出会えることです。グラグラ笑わせてくれる人ではなくって、interestingっていうか、興味深く面白い人です。高校まではかごの中にいるような世界だと思うんです。かごのなかで勉強しましょう、部活をしましょう、遊びましょうというような感じだとしたら、大学生は一步先にその外の世界を知っていて、話していて面白かったです。ユースセンターにいる大学生ってバイトでここに来るというより、こういった場所を見つけて、自分でなにかこういったソーシャルなことをしたいと思って来ている人が多いと感じます。

なので、自分より広い世界を知っていて、自分から行動できる人がいる場所、そうした人達と触れ合うことができるのがユースセンターの魅力の一つです。それから、ユースセンターではダーツやゲームなど、割となんでもしようと思うと、いろいろ経験できます。普通の高校生って誰もがダーツをするわけじゃないし、みんなで集まってボードゲームもしない。特別なことではないけれど、もしかしたらみんなで集まってゲームやダーツをすることが、非日常なのかもしれない。非日常が日常に溶け込んでいるような場所なのかもしれません。

ユースワーカーから将来につながるアドバイスはありましたか？

進路について何人かの大学生にいろいろと相談をしましたが、様々な選択肢をもらいました。最終的に進路を決めるのは自分ですが、提示される選択肢の広さや角度が異なり、そうした環境がありがたかったと感じています。目の前の進路しか考えていなかったので大学院進学や卒業後に地元に戻るかなど、いろいろな話や選択肢が聞ける機会がありました。

あなたにとってユースセンターとは？

僕にとってユースセンターは行かなくても死にはしないが、人生に彩りを与えてくれる場所です。生活のライフラインではないものの、人生の視野を広げ刺激を受けることができる場所です。